

● ご自由にお持ちください ●

花と緑の情報をお届けします。

2006
winter

30

Green Sketch

グリーンスケッチ

冬、 華やぐ季節を 待ちわびて

辺り一面を染める雪の白と
ひんやりと澄みきった空気。
雪の中から顔を出す花や緑に、
自然と心があたたまる。

- ① 役立つポイントアドバイス
- 花と緑のお悩み相談室
- ② 特集
- 公園を育てる動き〜公園ボランティアの今〜
- ③ 植物に親しむ
- 押し花をつくってみよう!!
- ④ 緑花センターからのお知らせ
- 緑花センター掲示板
- ⑤ 県内のイベント情報が満載
- 花と緑のイベント情報
- ⑥ にかた四季の散歩道
- 小牧社の大ケヤキ「十日町市」
- ⑦ みなさんからの声を紹介
- 読者の広場



にかた「緑」の
百年物語に
参加しています。



新潟県都市緑花センター

目次

役立つポイントアドバイス	
花と緑のお悩み相談室	01
特集 地域ので快適な都市環境を	
公園を育てる動き ~公園ボランティアの今~	02
植物に親しむ	
押し花をつくってみよう!!	06
緑花センターからのお知らせ	
緑花センター掲示板	07
県内のイベント情報が満載	
花と緑のイベント情報	08
にいがた四季の散歩道	
小牧社の大ケヤキ[十日町市]	09
みなさんからの声を紹介	
読者の広場	10

花と緑の

お悩み相談室

Q プランターや鉢につかった土を再利用することは
できますか？

A 雪の多い新潟の真冬にはすこし難しいかもしれませんが、
土づくりは冬の園芸作業のひとつです。
天気がよくなってきたら試してみて、春の園芸に備えましょう。

花が終わった後のプランターなどの土は、古い根などがたくさん入っているだけでなく、水やりなどで土の粒がくずれ、水はけや通気性が悪くなっています。とはいえ、植えることに新しい土をつかうのもどうかと考えている方も多いことでしょう。

以下のようにすこし手を加えて、用土としてつかうことができます。

- ①土を半がわきの状態にします(湿って固まっているとうまくふるえなくなるため)。
- ②ビニール袋などに広げ、根をほぐし、ゴミや根を取り除きます。
- ③さらにふるい*をつかって細かい根を取り除きます。※細かすぎるふるいを用いると、みじんのみになってしまうので注意してください。
- ④目に見えない虫の卵や菌が入っていることもあるため、以下のいずれかの方法で消毒します。
 - 黒いビニールに平たく入れて口をよく縛り、日光によく当てます。土が十分にあたたまっているか確認すること(冬なら5~7日くらい、真夏なら2日くらい)。
 - 育苗箱などに土を広げて熱湯をかけます。熱湯の扱いには十分注意してください。また、プラスチックの容器などでは変形することがあります。
- ⑤十分に冷たい空気にあて、ときどき混ぜ合わせます。
- ⑥春につかうときには、古い土の2~3割の新しい土(赤玉小粒7:腐葉土3)を加えます。

大湯水と森公園
湯と森、自然があふれる。



特集



県立植物園
栽培管理ボランティア【芝張り】

公園を 育てる 動き

地域ので快適な都市環境を
公園ボランティアの今

今年度の特集では、公園をより良く活用していく上で、公園管理のあり方に着目していることに加え、公園について地域のみなさんが参加して考えていくワークショップの取り組みや、公園における住民参加活動など、公園管理への一般の方の参加がさまざまなかたちで行われていることを紹介してきました。

このような活動は、生涯学習やボランティア活動などとして社会的に求められている動きでもあり、余暇活用、生きがい、地域や人々のコミュニケーションの場となるとともに、みなさんの手が加わることでさらに公園が快適な環境になることが理想です。

そのため、当センターでは、公園にかかわっていただくためのイベントを計画するとともに、公園におけるボランティアの募集や受け入れを行っています。また、今年度よりボランティアなどの人材育成を事業としてすすめています。

今号では、現在、県立公園で行われているボランティア活動を紹介します。



大湯水と森公園
森林ボランティア【植樹会】

公園で行われる ボランティア活動

公園におけるボランティアには、さまざまなかたちがあります。

継続的に管理に参加いただける方を募集するもの

あらかじめ設定した内容にそって作業していただくもので、このページで紹介する県立植物園の事例はこれにあたります。

外部団体に公園を活動場所として提供するもの

団体からの申し出を待ち受けるものと、管理場所を示して団体を募集するものなどがあります。4ページで紹介する県立大潟水と森公園の事例はこの前者です。

大規模に募集してイベント的に行う活動

平成17年10月、新潟県スポーツ公園では、このかたちで公園内の一斉清掃を行いました。このような活動は、恒例化されるものもありますが、参加者はそのつど募集されるために固定されない特徴があります。



栽培管理ボランティア【竹垣づくり】



標本作成ボランティア



展示解説ボランティア

来館者に展示の内容を分かりやすく説明。「知識が深まる」と来館者からも好評です。

新潟県立植物園のボランティア活動

新潟県立植物園

では、平成17年度よりボランティアのみなさんに作業を行っていただいています。

まだ1年目ではありますが、月に15回ほどのペースで活動を行っています。

植物園には、植物

の管理のほかにもさまざまな作業があります。植物を良い状態で見せるために行き届いた管理を行うこと、「緑のシンクタンク」として植物や情報を集め、整理すること、企画展示をより良いものとし、来館者の満足度を上げることなど、植物園に求められているこれらのことの充実をはかるため、ボランティア活動の内容は以下のように設定しました。



栽培管理ボランティア

チューリップの球根を鉢に植えつけています。春の「チューリップ展」のために行う秋の作業。

① 栽培管理ボランティア

除草や剪定、冬囲いなど、園内の植物の管理を行います。4月から11月までの作業ですが、冬季は他のボランティアの作業を行うこともあります。

② 標本作製ボランティア

植物園の貴重な資料である、植物の押し葉標本を作製・整理します。

③ 展示解説ボランティア

植物園の温室内で行われる展示の内容を、来館者に解説します。

応募者は申し込みの際に希望する作業種を選択します。

栽培管理ボランティアの場合は「栽培管理の仕事が少しでも覚えられたら」、展示解説ボランティアの場合は「解説をしながら植物の勉強ができるので」、などを学びたい、という気持ちで参加してくださっています。

参加してみて いかがでしたか？

～ボランティアの方々の声～

- 植物の知識が多くなった
- 入館者に話しかけることが楽しい
- 一緒に作業している人や職員と交流して勉強になり楽しい

「ボランティアの前日は、小学生のころの遠足の前日と同じわくわくした気持ちになる」という声もあり、みなさん楽しんで作業されているようです。

また、ボランティアとしてやってみたくはみなさんそれぞれですが、「植物が好き」という気持ちは共通しているようです。

「すくしでも植物園のためになつていと思うとうれしい。」といつてくださる方もいらっしゃいます。とても良い植物園を育てていきたいと考えている当センターにとつて、心強い言葉です。これからも、互いに与え合うことのできる活動としていきたいと思ひます。

森林ボランティア
平成16年度、下草刈

県立大潟水と森公園 「森林ボランティア」

上越市大潟区(旧大潟町)から、公園をボランティアの活動場所として提供してほしい、という依頼があったのは、平成16年のことでした。

区では、地域の方々と行政が協働でまちづくりを進めていくために、いがた「緑」の百年物語の助成事業である地域活動支援事業のなかの森林整備活動事業の補助を受け、地域の方が参加するボランティア活動を行うことにしたそうです。そして、その活動を通じてこの公園の魅力を地域の方に伝えて愛着を持ってもらい、さらには公園利用の促進となることを考え、公園を活動場所として設定してくださいました。活動は、大潟区総合事務所の産業建設グループの職員を中心として、広報などの呼びかけで集まった一般ボランティアで行われています。

公園の名前に見られるとおり、森林を多く有しているこの公園では、これまで森林域は場所によつて

園路脇のみの草刈を行う管理を行つてきました。

「大潟森林ボランティア」の1年目、平成16年の活動は、公園内の杉林の下草刈でした。林のなかに入り、草刈機と鎌をつかつて林床の草を刈るものです。2年目は草刈に加え、公園内にサクラの苗木を植樹していただきました。植えられた100本の苗木は、いずれサクラの森となることでしょう。

公園を訪れたとき、森林ボランティアに参加されている方にお話をうかがうことができ、「いつもウォーキングなどで利用しているこの公園にボランティアとして参加することで恩返しできれば、と思つて活動しています」と話してくださいました。他の参加者の方も、2回の活動を通し、ボランティア活動の大切さ、大勢集まれば大きな力となることを感じ、また、公園がきれいになることで、満足感、達成感が得られているそうです。総合事務所の内藤さんは、「新



森林ボランティア 平成17年度、植樹会(大潟水と森公園)

しい人にもぜひ参加していただきたい」と話してくださいました。幸いこの地域にはこのような活動に興味のある方が多いということなので、さらに広くこの活動を知ってもらい、募集することで活動への参加が盛んになるのではないのでしょうか。みなさんの活動で公園の魅力が増し、たくさんの方が訪れる公園に育つていくと思ひます。

●●●公園ファンクラブ発足●●●

また、この公園では、平成17年9月に「公園ファンクラブ」が発足しました。平成16年度、公園内のまだ開園していない部分である「潟の里ゾーン」の整備について、地域の方を交えたワークショップが行わ

れました。このゾーンは『地域のみなさんがかわつて管理を行っていく』エリアに位置づけられ、中心となる団体の存在が提案されました。また、大潟区では「まちづくり大潟」※をすすめており、活動内容の一つとして大潟水と森公園の利活用促進が掲げられています。ファンクラブの設立は、これらのことと、地域のみなさんの盛り上がりにも後押しされ、「まちづくり大潟」のなかの、広報や地域活動の強化の業務を行う部会である「コミュニティ部会」から発足したという経緯があります。活動についてはまだまだこれからですが、潟の里ゾーンを中心に広く活動されることが期待されます。現在、会員数は50名を超えました。みなさんで話し合い育てていく、潟の里ゾーンの開園が楽しみです。

(平成19年開園予定)

※地域の住民と行政が協働してまちづくりに対する意識の向上を図るもの。

ボランティアのかたちはそれぞれの公園で異なりますが、公園を育てることに参加しているという意識が芽生えていることに変わりはありません。また、これらの活動に参加するきっかけを探している、という声も、本誌のアンケートや公園の利用者のアンケートでも多く見受けられるようになりました。植物園のボランティアでは、「退職した時期で、参加すれば毎日の生活も規則的になり、健康にも良いと思った」と参加してくださった方もいらっしゃいました。現代の公園は、生きがい、やりがいを見つける場として、期待されているのです。



作業後の豚汁のふるまいも好評(公園内炊事棟にて)。



新たに開園する“潟の里ゾーン”の説明会。

●お問い合わせ

来年度のボランティア受付中です。

●植物園ボランティア

新潟県立植物園…TEL0250-24-6465

●大潟水と森公園「森林ボランティア」

上越市大潟区総合事務所 産業建設グループ…TEL025-534-6803

●大潟水と森公園ファンクラブ

大潟水と森公園事務所…TEL025-534-6190

平成17年度の特集のまとめ

地域と
ともに
公園を
育てる



これまで公園の管理に際しては、誰もが安心して、安全に、快適に利用できる場所であることに配慮してきました。近年では、そのように環境を整えることはもとより、人々の精神的な豊かさを養う場としての役割が強く求められています。

本来、「コミュニケーションや憩いの場としての機能を持つている公園ですが、十分に発揮されているとはいえません。また、利用のマンナーなど、多くの人が集まる場所だからこそその問題はありますが、利用する人同士のつながり、地域の輪づくりを促していくことで、ある程度の解決が期待されています。そのため、「コミュニティの場としての機能の充実が急がれます。

今年度の特集で紹介してきた事例からもわかるように、方法や内容は、公園、地域、季節や時間などいろいろな条件によってさまざまです。しかし、地域と公園とのつながりが今まで以上に深いものになっていくことははっきりしています。公園を管理する当センターにとって大切なのは、利用するみなさんが公園に何を求めているのか、耳を傾け続けていくことです。子どもたちには自然とふれあう機会、働く世代には余暇を有意義に過ごす時間、年配の方々には楽しく過ごせる場所としての環境など、さまざまな要望を受けてさらに公園の機能を充実させていきたいと考えています。



植物に親しむ

押し花をつかってみよう!!

冬は家の中で草花を楽しむことができますね。
鉢の花を長く楽しむために摘んだ花、捨てるのがしのびないな…とか、飾った切花の美しさをとっておきたい!!と思う方も多いはず。
そんなときは、押し花にしてみませんか? 植物はまた違った表情を見せてくれますよ!

準備するもの

- 植物 (葉や花は濡れていないもの)
- 乾燥シート ● クッションペーパー
- チャックつきの袋 ● はさみなど

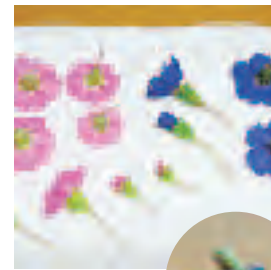


今回つけた植物
プリムラ(桃・紫)、葉牡丹

Let's try!
つくってみよう!

1

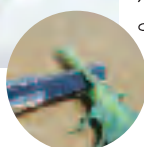
押す花や葉を切り取ります。
※押す花は開いたばかりのものを選びましょう。



2

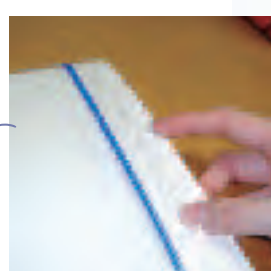
乾燥シートの上にクッションペーパーを置き、花や葉を重ならないように並べます。

※茎の太い部分は、あらかじめカッターなどでそぎます。
※表になる面を下にして置きます。



3

クッションペーパーをのせ、乾燥シートを重ねます(3~4段重ねることができます)。



4

袋に入れます。



5

本などで5kgくらいの重石をします(乾燥シートと同じサイズが理想的)。

押し花にむいている花は…

パンジー、プリムラ、カスミソウなど。茎が太くなく、花びらがあり厚くないもの。

完成した押し花は…

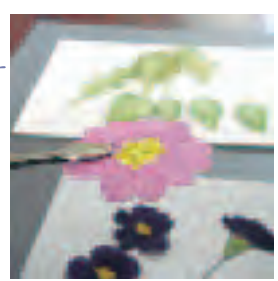
押し花用ボンドで紙にはり、カードなどをつくらせてみましょう。
※ピンセットなどでやさしく扱ってください!!



6

3~4日で乾燥します(持ってみてシャンとしていれば乾燥しています)。

クッションペーパーにはさんで、よく乾いた乾燥シートとともにチャックつき袋に入れて保存します。



クリスマス向けの寄せ植えとミニリースづくり体験教室開催報告

平成17年12月11日(日)午前10時より、新潟県スポーツ公園内レストハウス休憩ホールで体験教室を開催しました。当日は24名の皆さんからご参加いただき、職員の説明の後に、寄せ植え、そしてミニリースづくりを行いました。

前半の寄せ植えづくりでは、5種類のポット苗の配置を考えてプランターに植え付けました。同じテーブルの方々とお話ししながら植え付けをしていただきました。後半は、5種類のドライフラワーの材料を使って、ミニリースを2個つくりました。同じ材料をつかっても組み合わせや配置でさまざまなリースが出来上がりました。

参加された方から楽しかったという感想をいただき、これからも公園で花と緑に親しめる企画を行っていききたいと思います。



Green Sketch 30号記念企画

「緑・花の標語コンクール」作品募集!!

当センターでは、まちに緑や花を増やしていくことの重要性をさらに啓発するために、「緑・花の標語」を募集することといたしました。

1. 標語のテーマ

私たちに快適な生活環境を与えてくれる「まちの中の緑・花」を増やし、守っていく意識を高め、緑豊かなまちづくりを進める内容のもの。

2. 応募の資格

新潟県内に在住、在勤、在学の方。

3. 募集期間

平成18年2月1日から平成18年2月28日まで
(当日消印有効)

4. 提出・問い合わせ先

財団法人 新潟県都市緑花センター
〒950-0933 新潟市清五郎58番地
TEL 025-257-8711 FAX 025-257-8766
E-mail center@greenery-niigata.or.jp

●官製はがき、FAX、電子メールのいずれかによりご応募ください。各1通につき1作品(一人3点まで)としてください。

※本誌綴じ込みのハガキは応募に使用しないでください。

●はがき表面、FAXの送信欄、電子メールの件名に「標語作品応募」と明記してください。

●はがきの裏面、FAXまたは電子メールの本文に、標語、応募者の氏名、住所、電話番号、職業(または学校)、年齢を明記してください。

5. 賞の決定と発表

当センター審査委員会により平成18年3月中旬に賞を決定し、入賞者に通知するとともに、ホームページ、情報誌(4月発行予定)にて公表します。

6. 表彰

次のとおり表彰状及び副賞を授与します。
◎最優秀賞……1点(表彰状および商品券3万円分)
◎優秀賞……3点(表彰状および商品券1万円分)
第19回春の新潟県都市緑花フェアで表彰式を行います。

7. その他

- 応募作品は、未発表のものに限ります。なお、表彰作品の著作権は、主催者(新潟県都市緑花センター)に帰属します。
- 選ばれた標語については、当センターの活動(ホームページ、印刷物など)において活用させていただきます。
- 審査の対象は標語の文言のみです。画像、ロゴ、デザイン、特殊な字体等での応募は審査の対象となりません。

緑花センター

掲
示
板

このコーナーでは、緑花センターの事業紹介や緑花センターが管理運営している県立公園等の情報をお届けします。

植物クイズ

今号で押し花につかったハボタンはキャベツ(アブラナ科)の仲間です。アブラナ科の植物ではないものは次のうちどれでしょう?

①ナノハナ ②ハクサイ ③レタス

● 答えを綴じ込みのアンケートハガキにご記入ください。

● 正解者の中から抽選で5名様に粗品を進呈します。

● クイズのめ切は3月15日(必着)です

● クイズの答えと当選者は次号(4月発行予定)に掲載します。

【29号植物クイズ当選者発表】

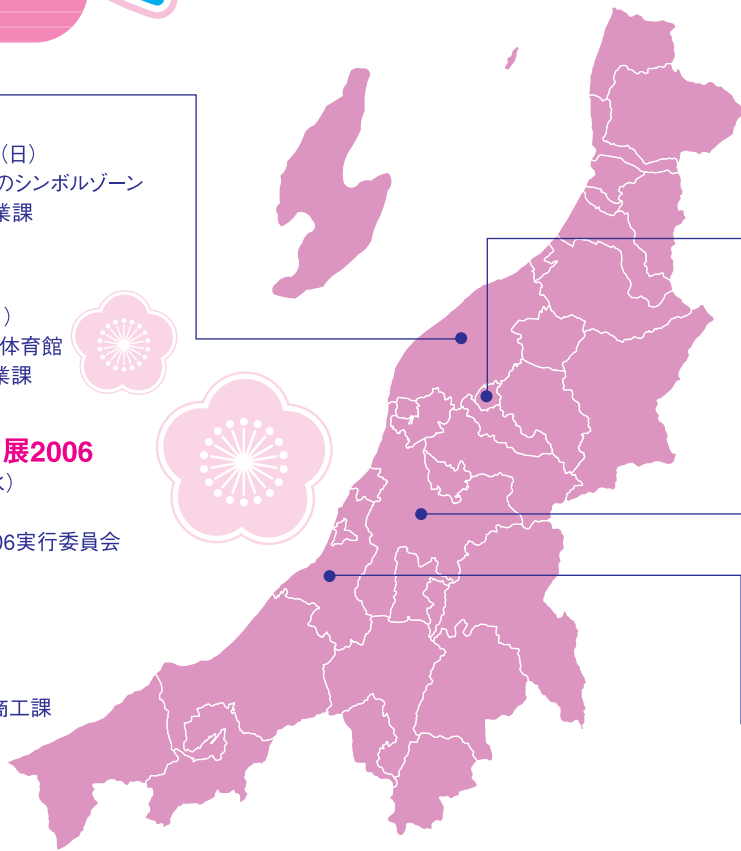
「秋の七草」に含まれる木は? 正解は③ハギでした。当選者は以下の方々です。おめでとうございます。

◎高橋優子さん(十日町市) ◎浅見ちよ子さん(新潟市) ◎佐藤栄子さん(新潟市) ◎井上兼吉さん(小千谷市) ◎中村昌雄さん(新潟市)

花と緑の

イベント情報

県内で開催されるイベントをご紹介します



新潟 雪割草展
2月18日(土)～3月26日(日)
新潟市小須戸 ●花と緑のシンボルゾーン
新潟市小須戸支所 産業課
0250-38-3111(代)

新潟 日本ボケ展
3月3日(金)～3月5日(日)
新潟市小須戸 ●小須戸体育館
新潟市小須戸支所 産業課
0250-38-3111(代)

新潟 にいがた世界の蘭展2006
3月3日(金)～3月8日(水)
新潟市 ●朱鷺メッセ
にいがた世界の蘭展2006実行委員会
025-283-8180

新潟 かめだ梅まつり
3月下旬(予定)
新潟市 ●亀田支所周辺
新潟市亀田支所 農政商工課
025-381-2111(代)

田上 うめまつり
3月26日(日)
田上町 ●梅林公園
田上町役場 企画商工課
0256-57-6221

長岡 雪割草まつり
3月18日(土)～3月21日(祝・火)
長岡市 ●国営越後丘陵公園
越後丘陵公園管理センター
0258-47-8001

柏崎 雪割草まつり
3月18日(土)、3月19日(日)
柏崎市西山町 ●大崎雪割草の里
柏崎市西山支所 地域振興課
0257-47-4010

新潟県立植物園

観賞温室「花と緑のステージ」展示



アザレア展



チューリップ展

早春を彩るにいがたの花
～アザレア～

2月7日(火)～3月5日(日)

早春を彩るにいがたの花
～チューリップ～

3月7日(火)～3月31日(金)

県内の愛好家による展示

洋らん展

2月7日(火)～12日(日)

雪割草展

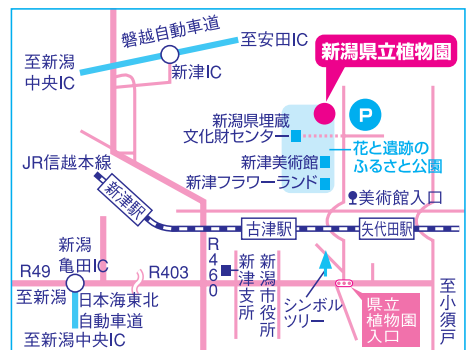
3月17日(金)～21日(祝・火)

※洋らん展、雪割草展は無料でご覧いただけます。

花と緑の教室 花のカルチャープラザ

1月～3月に、花と緑の情報センターで行う予定です。

日程や内容等については県立植物園へお問い合わせください(ホームページにもイベント情報が載っています)。



磐越自動車道 ●新津ICから国道460号(新津東バイパス)、国道403号経由で約20分
日本海東北自動車道 ●新潟亀田ICから約20分
<駐車場無料>
JR ●信越本線古津駅から徒歩約20分
バス ●新津美術館入口下車 徒歩約10分

お問い合わせは
新潟県立植物園

Tel.0250-24-6465 新潟市金津186
e-mail ●botanical@greenery-niigata.or.jp
URL ●http://botanical.greenery-niigata.or.jp/

観賞温室利用案内

- 入館時間/9:30～16:30(入館締切り16:00)
- 入館料/大人600円 小中学生300円(土・日・祝日は小中学生無料)
- 休館日/毎週月曜日(祝日の場合は翌日)

●日程等は変更になる場合がありますので、詳しくは各お問い合わせ先にご確認ください。 ●緑や花に関するイベント情報をTEL・FAX・メールにてお寄せください。

四季の散歩道【巨木・名木編】

「Green Sketch」秋・冬号では、当センターが行った調査(*)をもとに、新潟県内各地の名木・巨木・樹林地を紹介していきます。

※平成13年度に、県内市町村に協力をいただいて行った調査。調査対象は、「未来に残したい樹木」「地域で愛されている樹木」で、国、県、市町村の文化財指定を受けていないもの。

小牧社の大ケヤキ【十日町市】

信濃川沿いの田園地帯にある小牧神社は、数本の大きなケヤキに囲まれています。

緑のかたまりのようなようすは、段丘崖の上を走る国道からも確認できます。なかでも大きな一本は社に寄り添うように立ち、枝折れの治療の形跡はあるものの樹勢はよく、夏には左の写真のように見事に葉を茂らせます。大量の葉を落とす秋には、地元の人々の方々が落ち葉の掃除をするそうです。

十日町市は多雪地域。厳しい環境のなか、風雪に枝を折られながらも地域を見守ってきたのでしょう。この神社の近くにお住



夏の様子

- 樹 高：34m
- 幹周り：6.75m
- 樹 齢：推定300年以上
- 所在地：十日町市馬場太田島



撮影は平成17年3月半ばすぎ、近所の家が冬囲いを外すころ。厳冬を乗り切ったケヤキの姿。

まいの方に、この木の下に家があった頃の話がうかがうと、かつて冬には、枝に積も

る雪やその雪の重みで折れる枝が屋根に音をたてて落ちてきたそうです。今年も大雪ですが、積もる雪に枝をしならせているのでしゅうか。しかし、迫力ある枝のひろがり、冬にこそはつきりと見ることが出来ます。じっと春を待つ姿が印象的です。

■ケヤキ(ニレ科落葉高木)

日本、朝鮮半島、中国、台湾に分布。街路樹に多く用いられる。健全な木では半開した扇のような樹冠となる。夏に緑陰をつくる葉は、秋には黄から赤色に色づき美しい。材としても優れており、建築や工芸などに用いられる。寿命が長く寺社などの境内に神木として植えられたものは、多くは大木となる。

■資料提供 / 十日町市 ■参考文献

「日本の巨樹・巨木林 甲信越・北陸版」環境庁1991年
「山溪カラー名鑑 日本の樹木」山と溪谷社1985年



緑花センターの助成事業

『花と緑の アドバイザー派遣制度』 申請団体を募集中!!

各種団体が開催する講習会等に講師を派遣し、その費用を助成する制度です。

対象団体 新潟県、市町村、学校、団体等

対象経費 講習会などへの講師の派遣にかかる費用

この事業の申請窓口は、社団法人にいがた緑の百年物語緑化推進委員会です。

申請、お問い合わせは、下記までお願いいたします。

お問い合わせ先 社団法人 にいがた緑の百年物語緑化推進委員会
〒950-0965 新潟市新光町7-2 新潟県商工会館5F
TEL 025-290-8055 FAX 025-290-8051
ホームページ <http://www.midori100.com>
メール info@midori100.com

「花と緑のアドバイザー」を 募集しています!!

- 新潟県内にお住まいの方
- 花と緑に関する知識、技術、技能や経験を有し、都市緑化の普及啓発に熱意のある方
- この制度の趣旨を理解し、進んで協力する意思のある方

「花と緑のアドバイザー」として登録しませんか?

登録申請~~マ~~切 ● 平成18年2月24日(金)必着

任 期 ● 平成18年4月1日～平成21年3月31日

登録申請、お問い合わせは下記までお願いいたします。

お問い合わせ先 財団法人 新潟県都市緑花センター
〒950-0933 新潟市清五郎58番地
TEL 025-257-8711 FAX 025-257-8711
ホームページ <http://www.greenery-niigata.or.jp>
メール center@greenery-niigata.or.jp



読者の広場



植 物に親しむはいつも楽しく拝見しています。前号(29号)で紹介されたミニ盆栽は最近はやっていますが、身近なところに緑があるのはとても良いものですね。私もつくってみたいと思います。

● 11月29日アンケートハガキより
● 新潟市 伊藤京子さん

図 ミニ盆栽はつくってみましたか。今号の「植物に親しむ」では押し花を紹介していますので、こちらもぜひつくってみてください。

図 書館でカラフルなクリスマススカパーのチラシが目に残りました。県立植物園のクリスマス展のチラシです。以前一度訪れたことを思い出し、また行ってみたい衝動にかられて娘を誘いました。12月はじめの週末に行く予定です。今からとても楽しみです。

● 12月1日アンケートハガキより
● 魚沼市 佐藤高子さん

県立植物園のクリスマス展は毎年大人気の恒例企画で、今年度も多くのみなさんからお来場いただきました。2月7日から「早春を彩るにいがたの花」を開催しています。
詳しくは県立植物園ホームページ
(<http://botanical.greenery-niigata.or.jp/>)
をご覧ください。

今 年のブナは実をたくさんつけると言われていたので、さっそく山道でブナの実を拾いました。庭にまきましたが、いくつ芽が出るのか楽しみです。

● 12月2日アンケートハガキより
● 柏崎市 元井毅伸さん

ブナの豊作の年は3〜4年に一度です。実は動物や虫の好物で、今年はたくさん食べたことでしょう。元井さんのお庭のブナもたくさん芽を出すと思いますね。

紫 雲寺や県内あちこちの花を訪ね歩いてるので、前号の特集で紫雲寺記念公園が紹介されていて、身近に感じました。また、イベント情報に載っていた弥彦菊まつりへ行きましたが、同じ人が複数受賞しているのが驚きます。人の手による菊も、野の菊も共に美しいと思います。来年は自慢の山野草の写真を送ります。

● 12月6日アンケートハガキより
● 柏崎市 郡司智恵子さん

「読者の広場」では、写真の投稿も募集しています。郡司さんのご自慢の写真、お待ちしております。また、県内のおすすめ公園等がありましたら、ぜひ教えてください。

おたより募集!

「Green Sketch」では読者のみなさまから花や緑に関するおたよりを募集しています。字数は300字以内なら何字でも構いません。ご自慢のお写真の投稿も大歓迎!!住所、氏名、電話番号を明記の上、右記までお寄せください。掲載にあたり趣旨は変えませんが若干の手直しをさせていただくことがあります。また、原稿・写真の返却、採否のお答えはいたしませんのであらかじめご了承ください。なお、掲載させていただいた方には粗品をプレゼント!! たくさんのおたよりお待ちしております!

郵便 〒950-0933 新潟市清五郎58番地 (財)新潟県都市緑花センター 情報誌「読者の広場」係

FAX 025-257-8766

e-mail center@greenery-niigata.or.jp (e-mailでのおたよりは添付形式にせずにお送りください。)

表紙写真／新潟県スポーツ公園（県立鳥屋野潟公園）自然生態園
強く冷え込んだ日の朝、「樹霜」が見られた（平成17年2月撮影）。



樹霜

空気中の水蒸気が冷えた枝や葉などにぶつかり、氷の結晶となって付着したもの。

「グリーンスケッチ」は、県民のみならずととも花と緑を育て、私たちが暮らすまちのなかの緑を守り、さらに緑と花を増やしていくための情報誌です。

都市緑化についてのご意見、みなさんのお住まいの地域にある自慢の花や緑の空間、花や緑の活動を行っている人や団体などの情報を緑花センターまでお寄せください。



寄付のお願い

財団の公益事業は 基金の運用果実により行われます

当センターは県・市町村及び県民のみならずからいただいた寄付金より基金を造成しており、その基金を安全・確実な方法で運用した運用益(果実)により緑花の推進事業を行っています。

寄付のお問い合わせ先

(財)新潟県都市緑花センター 総務課宛
TEL025-257-8711



編集後記

新しい年がやってきました。
2006年は本誌創刊より10年目の年となり、今号は記念すべき30号です。
私たちの生活に寄りそっていてくれる花や緑の大切さをみなさんに伝えていけるように、いっそう充実した誌面を目指していきます。
本年もどうぞよろしくお祈りいたします。

グリーンスケッチは県関係機関、各市町村、主な図書館、病院などで配布しています。直接配布を希望の方は下記連絡先「情報誌係」までご連絡ください。

財団法人 新潟県都市緑花センター

〒950-0933 新潟市清五郎58番地
TEL 025-257-8711 FAX 025-257-8766
E-mail center@greenery-niigata.or.jp
URL <http://www.greenery-niigata.or.jp>



登録範囲は、事務局、鳥屋野潟公園事務所、紫雲寺記念公園事務所、県立植物園です。